SHARP　導|入|事|例

インフォメーションディスプレイ Vol.18

早稲田塾
情報開発室 責任者
工藤 英幸　様

早稲田塾　様

東京・神奈川に14校を展開されている早稲田塾様は、高校生のみを対象とした“現役合格”のための予備校です。独自のカリキュラム、フリーパスシステム、“第二の家”をコンセプトとする学習環境、AO・推薦入試対策など、斬新な提案により絶大な信頼を獲得。28周年を迎えた本年、「顧客満足度の高い塾・予備校ランキング（オリコン調べ）」でNO.1に輝きました。

早稲田塾 秋葉原校：千代田区神田松永町

学びの環境をもっとエキサイティングに！塾生との絆が深まるインフォメーションが実現しました。

PN-655×1台
PN-455R×14台
（各校受付）
導入

校舎のエントランスで真っ先に目に飛び込んでくる『PN-455R』。鮮やかに映し出されているのは、大学との連携による特別プログラムのレポート、各校から寄せられた合格速報、各種イベントの告知など、塾生の学ぶ意欲を喚起する動画コンテンツです。コンテンツはすべて自社で制作したオリジナル。『e-Signage』を利用して番組を編成し、本部のサーバーから専用通信網を通じて全校へ配信しています。

「たとえば、授業の合間の休み時間、ガイダンスの終わりに合わせて関連する情報を送るなど、オンタイムで配信することができるので、ビデオとは比較にならないほど効率的な情報提供が可能になりました。お問合せ窓口やWebサイトへの誘導はもちろん、新規入塾者や保護者の皆様へのPR効果にも期待しています。」

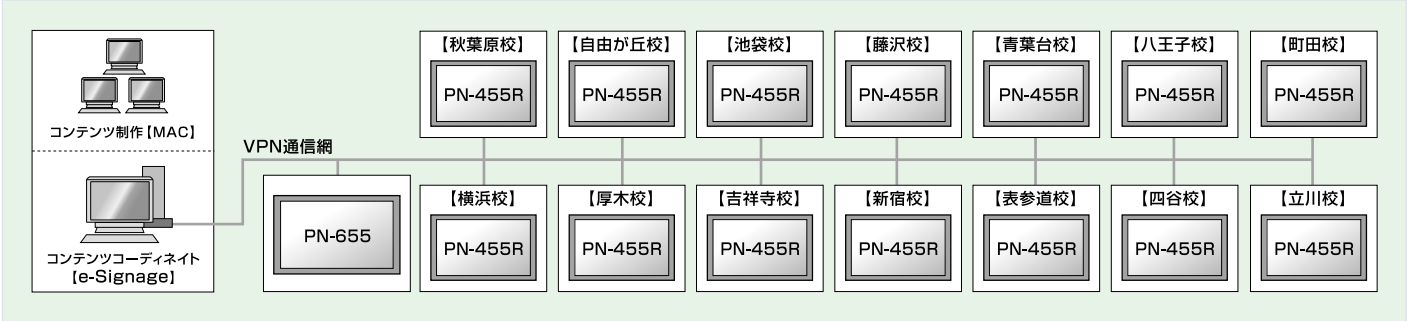
導入から3ヶ月、この新しいインフォメーションシステムは、“ECHO（エコー）”というニックネームで呼ばれ、すでに馴染みの存在となっています。

四谷校の受付。「PN-455R」に常時インフォメーションが表示されている。同様に各校舎ではそれぞれのタイムテーブルで番組が流されている。

導入時の評価ポイント

- コンテンツのクオリティを活かす
  1,920×1,080画素の高精細大画面
- 明るい場所でもくっきり見られる
  ASV低反射ブラックTFT液晶
- コンテンツ配信・表示をトータルサポート
  緻密なスケジューリング機能
- 専用のVPN通信網をスムースに構築
  通信ネットワークとの親和性

■ システム概略図



導入の経緯　かけがえのない時間を充実させるために。映像の力を活かすネットワークシステムを模索。

現役高校生のための予備校、早稲田塾の教育の焦点は、大学受験そのものではありません。現役合格の先にある大学での学びや、さらにその先の“生き方”を生徒自らが見出し、明確な目的意識とビジョンを持って受験と向かい合える環境を提供したい。その理念から導き出されたひとつの答えが、メディア、イベントを有機的に活用する情報戦略です。映像コンテンツの開発にもいち早く取り組まれ、圧倒的な質・量の情報で塾生の心を触発してきました。

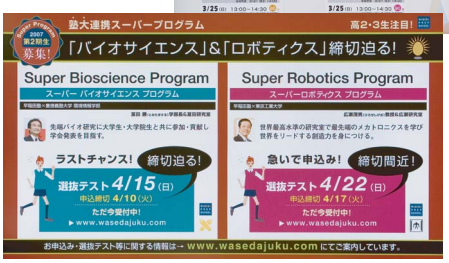
「長年にわたり培ってきた文化やリソースは強みです。だからこそ、デジタルコンテンツが長足の進歩を遂げたいま、そのクオリティを活かせるネットワークシステムの導入は必須だと考えました。比較検討を重ねる中で、焼付きのない鮮明な映像、コンテンツの更新・配信のしやすさなど、納得のいくパフォーマンスに出合えました。」

コンテンツは、すべてグループ内のハウススタジオで制作される。ポスターからWebサイト、動画まで、敏活な体制は早稲田塾ならでは。

導入後の感想　ここには、いつでも発見と感動がある。ライブ感ある情報の威力を実感しています。

「ビデオをダビングし各校へ配送する、そこにかかる時間と手間を削減できたのが第一のメリット。また、ネットワーク体制と確実なスケジューリングが実現したことで、コンテンツ管理の煩雑さも解消されました。ことにスケジューリングの効果は大きい。校舎単位で配信設定ができますし、何よりリアルタイム性が格段に向上しました。合格速報などは、まさに“ニュース”として各校へ届きますから、生徒たちは先輩の喜びの声を通して臨場感を味わい、共感や連帯を深めることができるんです。」

反響は予想以上。リアルさと豊かな表現力により、単なるインフォメーションから“伝わる×感じる”コミュニケーションへ、情報の性質がシフトしたともいえるでしょう。

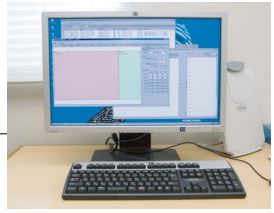


動画・静止画コンテンツを迫力の大画面で。各校の『PN-455R』には最新情報がタイムリーに届けられる。写真は動画の間に挟み込まれるポスター型のインフォメーション。

今後の展開予定　挑戦とイノベーションはお家芸。先駆けとして、一歩先をいくコミュニケーションを追求。

インフォメーションディスプレイが核となってWebや紙媒体が結びついていく、メディアミックス的な効果は織り込み済み。では、次の一手は何を構想されているのでしょうか。

「インフォメーション機能のオプションとしては、その場で申し込みができるような、インタラクティブな活用ができたらいいですね。タッチパネルとか塾生証（IDカード）とか、方法論はいろいろありますが、アクティブであることにこだわりたい。さらに、授業に使用することも可能でしょうし、各校の時間割の変更の掲示など、即時性ももっと追求したい。何にしても“伸びしろ”は大きいと思います。」



ここがネットワークの中枢。コンテンツ配信基地として、ネットワークを一元管理している。

発想次第で可能性は自在に広がります。今後は、より“早稲田塾らしい”、突き抜けた展開が見られそうです。

●お問い合わせは　シャープ株式会社
情報通信事業本部　ビジネスソリューション事業部
電話：（03）3260-8217　／（0743）55-6373

2007年5月発行